

平成29年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさをも身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
--------	---

重点目標	「埼玉平成は言葉に強い生徒を育てる」 1 英語教育の徹底・英検全員受験 2 コミュニケーション力の強化・日本語検定全員受験 3 徹底した論理的思考力の育成 4 積極的な広報活動を展開し、学校の特色を伝え入学者を確保する
------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	3名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標				平成29年度評価 (3月3日現在)			実施日平成年月日
番号	重点目標(評価項目)	現状と課題	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	英語教育の徹底・英検全員受験	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の入学生より、英語に特化したコース「English Career Course」がスタート。ニュージーランドへの短期留学をはじめ英会話の充実、カリキュラムの検討、英語の行事等新規企画の立案と実施、定着に努力する。 昨年のセンター入試(英語)では、学年平均点が大きく飛躍した。その結果を分析し、今後の生徒の指導に生かせるよう努力する。 英語検定目標級の合格者を増加させるため、英語科での現状把握、指導法を研究し検定対策授業や対策指導をさらに強化し、合格率を上げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 中等部での国内英語合宿、オーストラリアでの語学研修旅行、高等部でのアメリカ語学研修旅行の実施、中高一貫希望者の校内ミニ留学、海外ホームステイを引き続き実施する。国際社会で活躍するための生きた英語教育を充実する。 ネイティブスピーカーの教員を中心に、放課後のEnglish Station(英会話サロン)を利用し校内で自然に英会話ができる雰囲気を作る。 文化祭時に英語スピーチコンテストの実施。中1、中2は暗唱、中3、高1は自由テーマで弁論。 中1と中2から高1のS選抜クラスでは、毎朝、ラジオ基礎英語講座を継続的に取り組む。 英語検定合格のための特別時間を設置し、2級取得を目標とし全員取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語行事 <ul style="list-style-type: none"> *オーストラリア語学研修旅行成果 *国内英語合宿の成果 *English Campの成果 英会話サロン成果 スピーチコンテストの成果 ラジオ講座の成果 英語検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリア語学研修旅行では、事前に数回取り組んだ手紙、Eメール交換で互いの情報を入手していたので、現地校での生徒同士一対一の英語での会話が盛り上がり、大きな成果を収めた。 国内英語合宿では、講義時間だけでなく朝食時から夕食時までネイティブスタッフが生徒達についてくれるので、有意義な英会話の学習ができた。 今年度からスタートしたEnglish Career Courseの中1生が英語に親しむための良い機会となった。 放課後の時間を利用して、必修参加の時間帯と自由参加の時間帯に分けて実施し、自由参加の時間帯にも積極的に参加し、英検の面接練習をした生徒もいた。 校内のスピーチコンテストの上位3名が地区大会に参加し、入賞には至らなかったが、立派な発表であった。 継続的に英語を聴くことで、リスニングの力が着実に身につけてきている。 英語検定、中等部3年生の3級取得率48%、高等部3年生の準2級取得率53%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 現地校との交流は年々親密になってきている。次年度も早目に対応していきたい。 ニュージーランド短期留学に向けて、国内英語合宿からEnglish CampⅡに変更となる。内容を十分検討し実施したい。 放課後の英会話サロンは必修時には活発に活動している。自由参加時間の生徒利用が増えるように工夫したい。英検2次面接の直前は積極的に練習に来る生徒が多かった。 スピーチコンテストでは自らの経験を基にした話が高得点を得やすいので、原稿作成時から注意して指導し、地区大会での上位入賞を目指して行きたい。 ラジオ講座を継続することでリスニング力とスピーキング力を同時に身につけさせたい。 英検対策授業の他に家庭でスタディサブリの英検対策も活用させていきたい。
2	コミュニケーション力の強化・日本語検定全員受験	<ul style="list-style-type: none"> 本校の伝統を大切にしつつ、各行事を見直し充実を図りたい。 日々の授業や行事を通じて、常にその根拠となる理由を考えさせる。考えるために書くことを重視し、「言葉」の教育を徹底し、そのうえでより高度なコミュニケーション能力の育成を図りたい。また、人の話を聴き、人前で自分の考えを適切に伝えることのできる人間を育てる。 行事等での取り組みを、事後も環境教育・ボランティア活動への取り組みに発展させたい。 日本語検定の目標級合格者を増加させるため、国語科での現状把握、指導法を研究し検定対策授業や対策指導をさらに強化し、合格率を上げたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 平素の学習活動や諸行事を通して、コミュニケーション能力を身につける。 コミュニケーション能力の強化を図り、相手の立場に立って他者を感じる力の育成に力を入れる。 体験的学習、作業的学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れ、自ら学ぶ力、考える力を育成する。 講演会、昼の文学散歩、読書活動などの「言葉」の教育を徹底する。 日本語検定合格のための特別時間を設置し、3級取得を目標とし全員取得を目指す。 新聞検定の全員受験・合格を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校諸行事 <ul style="list-style-type: none"> *体育祭 *せいりゅう祭 朝読書 読売新聞出前授業の成果 日本語検定の結果 新聞検定の結果 	<ul style="list-style-type: none"> 本部との合同実施の体育祭では、各学年生徒数が少ないなか、クラスが団結し、力を出し切ることができた。 せいりゅう祭では、クラス内でアイデアを出し合いながら企画することができた。 朝読書の習慣が定着し、毎朝心を落ち着かせてから授業に臨めるようになっていく。図書委員会が学期末ごとに発行する図書だよりに記載されている推薦図書も効果的であった。 今年度読売新聞社から講師を招いて3回出前授業を実施したが、新聞の読み方や見出しの付け方のコツなどを実践的に修得することができ、新聞を読む習慣がかなり身についた。 日本語検定、中等部3年生の4級取得率86%、高等部3年生の3級取得率53%であった。 中等部1年生から高等部3年生の全生徒が受験し、新聞の読み方を学び、時事問題等に関心を持つようになった。記事を速読し、その内容を瞬時に理解する能力が必要であることを自覚した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・せいりゅう祭ともに、少人数での開催となるが、一人ひとりが充実感を持って参加する工夫が求められる。 図書委員会が発行する「図書だより」で紹介された本がすぐに図書室に入り、生徒が読めるようになるようにしていきたい。 今年度初めて取り入れた読売新聞社の出前授業は3回実施したが、回を増すごとに内容も良くなり、生徒達が積極的に参加していた。来年度も内容を変えながら実施していきたい。 新聞検定は来年度も実施し、時事問題に関心を持たせるとともに、新聞記事を速読できる能力をさらに身につけさせていきたい。
3	徹底した論理的思考力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教育活動全体を通じて、与えられた課題に取り組むだけでなく、自ら学ぶ力を身につけ、論理的な思考力を育成したい。 生徒全体のプレゼン能力を向上させ、さらに自己の考えを他に発信することができる力を身につけさせてい。 コンピューター室の整理と管理。 CAPS、MESEの更なるステップアップを図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 体験学習に積極的に取り組み、計画的・系統的なキャリア教育を充実させる。 職業体験、講演会、講話等を通して、勤労観、職業観を形成・確立させる。 将来社会に出て活躍できる経営者としての感覚を磨くため、CAPS・MESE(ジュニア・アチーブメント)に取り組む。 論理的思考力を育成するため、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、主体的に解決策を探り出させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外務省等、訪問成果 CAPS・MESEの取組み成果 言葉の講演の成果 蓼科フィールドワークの成果 S選抜研究発表会成果 	<ul style="list-style-type: none"> 外務省の国際的な仕事内容、読売新聞社での24時間体制での新聞製作、JICAでの海外協力活動などを理解することができた。また、外務省ではホームページに本校が紹介された。 中等部ではCAPSを年2回、高等部ではMESEを年2回校内で実施した。今年度初めて高2生が全国で競う「知の甲子園」に参加したが、予選敗退となった。 地盤改良の大手企業アップコン社の松藤社長の講演を聞き、社会人になってからも「言葉について学ぶことが大切」であることを理解した。 蓼科からの帰校後、現地で調査した高山植物についてグループごとにプレゼンテーション形式で発表することができた。 中1から高1までのS選抜生が自由テーマでプレゼンテーションを実施した。大変優秀な内容のものもあった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 外務省、JICA、読売新聞社への訪問は継続していきたい。 ジュニア・アチーブメントのコンピューターシミュレーションプログラムでは来年度も全国で競い合う「知の甲子園」に参加し、予選突破を目指したい。 中1生はプレゼンテーション発表会に全員が参加できた。A進学の生徒に対するプレゼンテーション発表の機会を設けていきたい。
4	積極的な広報活動を展開し、学校の特色を伝え入学者を確保する	<ul style="list-style-type: none"> 近年特に入学者減少に伴い、新たに出発した新コースについての理解を求め本校の特色をアピールし、本校の良さを伝えたい。 募集行事の周知と共に本校の知名度を上げる取り組みの工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的な入試広報活動の実施。全校訪問日を設け全員で募集活動に取り組む。 訪問履歴をきちんと記録し訪問台帳を作成する。 パンフレットの早期作成、他校より早く配布 募集担当の囑託をおき、週3回各地区を訪問、広報活動と情報収集。特に県南西部・都内を訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 募集行事の状況 訪問台帳の状況 パンフレット作製・配布の状況 説明会等集客状況 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度のペースで説明会などのイベントを実施した。帽子や缶バッジといったオリジナルグッズを作り、継続的に参加してもらえるよう工夫した。 塾訪問台帳を作成し、訪問履歴や情報を共有できるように一冊にまとめて管理した。 学校案内パンフレットの他に、私教育新聞に掲載された本校の記事だけを集めた合冊版を2種類作成し、配布した。 集客は前年に比べると少し良くなっているが、期待していたほど増えてはいない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、フェイスブックでの学校紹介を更に充実させ、学校の魅力をアピールしていきたい。 中高6年間に在学したいという期待値を上げ、埼玉平成中学校を第一志望にする受験生を増やしていきたい。

他校では実施していない新聞検定などを実施していることは良いことである。しかしどのような検定なのかよくわからないので、ホームページでその内容を詳しく掲載するべきである。

ジュニアアチーブメント「知の甲子園」に参加したのはとても興味深い。予選敗退という結果であるが、参加校数や順位を公表して欲しい。

来年度は「知の甲子園」で予選突破を目指して欲しい。

親の目線だけでなく、子供の目線で魅力的なことをアピールしていただくことが大切である。

卒業生の口コミで地域の方々に良い学校であることを伝えて頂くことが大切である。